



# しいば 議会だより

第67号  
平成24年8月

発行 宮崎県椎葉村議会  
編集 議会だより編集委員会  
〒883-1601  
宮崎県東臼杵郡椎葉村大字  
下福良1762番地1  
TEL(0982)67-3209  
村内無料電話7-67-0091



6月定例会	.....(2)
一般質問	.....(3~5)
常任委員会等調査	.....(6~7)
議会の動き	.....(8)

向山地区、旧泉村縦木地区との交流会

# 平成24年6月定例会

平成24年度一般会計補正予算は

64,074 千円を追加

総額 43億01,074千円

## 平成24年度 補正予算額

会計名称	今回補正額(千円)	補正後(千円)
国民健康保険特別会計	8,121	464,798
簡易水道事業特別会計	2,211	53,371
病院事業特別会計		504,400
電気事業特別会計		34,488
介護保険特別会計	3,196	361,431
後期高齢者医療特別会計	62	86,094
ケーブルネットワーク事業特別会計	△630	60,072

6月定例会は、12日に開催され報告2件、承認1件、議案14件が審議された。

## 「集落支援対策及び福祉施設整備調査特別委員会」を設置

本会において、人口減少、少子・高齢化を要因とする集落機能の低下に対する対策と、多くの入所待機者をかかえる「平寿園」の施設整備等の調査、研究を行うための特別委員会を設置した。

集落支援対策については、行政や集落の皆様との意見交換や関係町村の事例調査研究に取り組み、分析・検討を加えて提言を行うこととします。

「平寿園」の施設整備に関しては、要介護高齢者の増加に適切に対応するため、施設の現状調査や関係機関、団体等の意見交換をもとに、早急な整備に向けた方策を提言することとしました。委員会に対する多くのご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

# 村長に聞く!

## ～ 一般質問 ～

椎葉芳一議員



### 質問 1

#### 作業道整備と維持管理について

管理されていない長期間未使用の作業道で、災害を発生させないために、管理台帳の整備を行い、効率的、効果的な維持管理を行うべきではないか。

### 答え

#### 村長

作業道の開設の実績は、幅員3mの作業道が440路線556km、幅員2.5mが20路線8km、幅員2mは路線数が不明確で202kmの合計766km。実際には災害等により利用できなくなっているものや、長期間利用されていない作業道もあり、詳細な状況は、十分に把握しきれ

### 質問 2

#### 「かてりの里・椎葉」持続について

平成24年度の施政方針の中で、5つの基本目標の中のひとつである、生き生きと働ける村づくりの目標について、期待を持つ二人である。

平成25年度は村長選挙の年だが、「かてりの里の精神」を引き継ぐ考えであるのか。

### 答え

#### 村長

平成9年7月に椎葉村長に就任をさせていただき、4期目が来年の7月で任期満了となります。

その間、議会並びに村民の皆様のご支援、ご協力をいただき、村民の幸せを願いながらさまざまな施策を実施してきました。

第3次長期総合計画の後期の部分、第4次長期総合計画の「いのちかがやく森林文明郷かてりの里・椎葉」を将来像に掲げ、その実現に取り組んで、大方計画どおりに推進できたと思っている。

平成の大合併の中で、村

民の皆様、議会の合意のもとに、自立、自走の道を選択した。非常に厳しい状況の中であったが、大行政改革を行い、県内でもトップクラスの健全財政を守っている。

しかしながら、人口減少を初め、少子高齢化の進行、高度情報通信社会の到来、それから地球規模での環境問題など社会情勢は変化をし、本村の基幹産業である森林林業等、非常に厳しい状況があり、対策に課題が山積をしている。

第5次の長期総合計画「夢、生きがい、幸せ、かてりの里・椎葉」を策定し、今年度からスタートし、産業の振興、道路網の整備、観光行政、教育等の振興はもちろん、その中でも特に少子高齢化に伴う子育て支援として、子供を生み育てやすい環境づくり、そして、支援や介護が必要となっても安心して暮らし続けることができるような施設の整備、また人口の減少、高齢化による集落機能の維持が非常に厳しくなってきた。その活性化を図るため、重点目標として引き続き頑張っていきたいと思



現在は、宮崎県作業道等開設基準に基づき、安全かつ長期間の使用に耐え得る作業道の整備に努めている。森林林業の振興を図る上で、作業道の果たす役割は極めて重要であり、通常の維持管理として必要な、崩土の除去や路線の整備など比較的軽微なものから、幅員の拡幅や線形の変更が支援策として考えられ、補助金による支援のみならず、体制の整備についても、検討が必要と考えている。

現在進めている、森林経営計画策定の調査や、林政審議会等で、新たな支援策を構築していく